

はら目ディカル通信

自分で測定できる眼圧計

自分で測定できる形式の眼圧計が開発されました。この眼圧計は *i-care* HOME (アイケア・ホーム) という名前の眼圧計で、すでにアメリカ、ヨーロッパで使用されており、本年11月に厚生労働省の認可があり、国内でも使用可能になりました。

i-care (以下、アイケア)の仕組み

アイケアは、磁気を利用し、特殊なピンが角膜に当たって跳ね返る速度を利用して眼圧を測定する器械です(図1)。「目に入れても痛くないくらい可愛い」などと言いますが、角膜は敏感な組織で、通常は触れただけでも痛みを感じるため、角膜に接触して眼圧を測定する場合には点眼による麻酔を行います。アイケアも角膜に接して眼圧を測定しますが、極めて接触時間が短く、「痛みを感じる間もない」ため、麻酔不要です。そのため、東日本大震災時の避難所健診でも大変役立ちました。

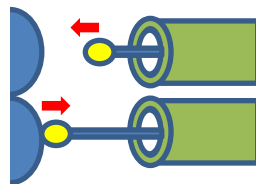
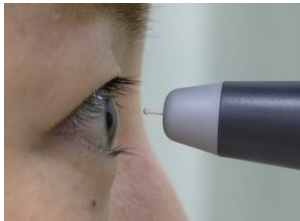


図1: アイケアの仕組み

先端が角膜に接触し、跳ね返ります。先端は使い捨ての専用のピンを使用し、毎回新しいものに交換して測定します。

アイケアにはPRO(以下、アイケア・プロ: 図2)とHOME(以下、アイケア・ホーム: 図3)の2種類があります。

アイケア・プロは、検査者が眼圧計を持ち、患者さんに眼圧計を当てて測定します。このタイプは数年前から臨床に使用されていました。(図2)



図2: アイケア・プロ
測定者が測定します。



図3: アイケア・ホーム
自分で眼圧を測定できます。

アイケア・ホームは自己測定用に開発された器械です。(図3)

また、眼圧は1日のうちでも高くなったり、低くなったりします。

人によっては昼の眼圧よりも、夕方あるいは深夜、早朝の方が眼圧が高く、そのため緑内障が進行する場合があります。

現在、当院ではそのような可能性のある患者さんには1泊入院検査を行っていますが、今後は、アイケア・ホームを貸し出して、ご自宅で測定できるようになるかもしれません。

体温、体重、血圧などは測定器を購入して自宅でも測定が可能でしたが、眼圧は病院へ行かないと測定できませんでした。この器械が将来、普及すれば、ご自宅で眼圧を測定できるようになるかもしれません。